

## 豊島区生涯学習推進計画（2009—2019）の成果と課題

平成 22 年 10 月に策定した「豊島区生涯学習推進計画」では、4 つ施策の方向性を挙げていました。施策ごとに、主な成果とこれからも継続していく課題と方向性について整理します。

この間、豊島区では平成 26 年に 23 区で唯一「消滅可能性都市」との指摘を受け、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、「女性にやさしいまちづくり」「高齢化への対応」「様々な地域との共生」「日本の推進力（国際アートカルチャー都市関連）」を 4 つの柱として持続発展都市を目指す様々な施策を展開しました。そして、その成果が現れ始め、平成 29 年には、日経 DUAL の「共働き子育てしやすい街ランキング 2017」総合 1 位に選ばれ、さらに、女性にやさしいまちづくりを前進させ、区内企業とパートナーシップ協定による公民連携も進めています。平成 30 年にはセーフコミュニティの再認証、平成 31 年「東アジア文化都市」にも選定され、国際アートカルチャー都市の推進に向けて力を注いでいます。

## (1) つどう～生涯学習の環境整備～

## 【成果】

「多様な学習機会の提供」については、講座数、受講者数は、いずれも大幅に増加し、学習内容についても 15 種類から 49 種類まで多様化し、学習活動の活発化の様子がわかります。

また、重点施策の青年向けプログラムは、「豊島区若者支援事業」として閉校施設を活用したみらい館大明を中心に平成 23 年度から実施しています。平成 25 年度からは、旧図書室を若者ととともに改装し、若者のサードプレイスとして「ブックカフェ」を開設しました。ブックカフェでは「つどう」「つながる」「やってみる」をコンセプトに、コーディネーターが常駐し、若者に寄り添いながら若者が主体となった講座の企画運営や、関心のあるテーマごとに立ち上げたプロジェクト活動を継続して支援したり、開かれた学びの場の提供をしています。

「活動拠点の整備」については、区民ひろばが全小学校区に配置され、平成 22 年度には 53 施設にすぎなかった学習・講座を開催した施設は、平成 29 年度には 177 施設と約 3 倍に増えています。生涯学習センターとしては、みらい館大明の中のブックカフェの一角で生涯学習に関する展示を行うとともに、学びを支援する人を支援するための研修やネットワークづくりを行っています。

「活動拠点の整備」については、区民ひろばが全小学校区に配置され、平成 22 年度には 53 施設にすぎなかった学習・講座を開催した施設は、平成 29 年度には 177 施設と約 3 倍に増えています。生涯学習センターとしては、みらい館大明の中のブックカフェの一角で生涯学習に関する展示を行うとともに、学びを支援する人を支援するための研修やネットワークづくりを行っています。

## 【今後の方向性】

多様な学びの機会拡充しつつあると言えますが、社会状況の変化に対応するため、また、地域課題の解決に向けた学習機会は引き続き充実が求められます。区が主催する講座だけでなく、学んだ区民がその成果を生かして自主的に開催する講座についても支援をし、学びの場の広がりを進めていきます。

## (2) つながる～情報提供・コーディネート機能の強化～

## 【成果】

誰もが気軽にインターネットにアクセスすることが可能になってきた現在、生涯学習情報については、メールマガジンを活用し月 2 回発信しています。しかし、独自の生涯学習総合情報サイトは立ち上がってはいません。中央図書館を活用して年に 5 回生涯学習に関する展示や、平成 30 年 7 月からは、生涯学習センター事業として、みらい館大明のブックカフェで関連図書を含めた常時展示を実施しています。生涯学習の相談機能については、学習・スポーツ課の窓口での対応に留まっています。

また、豊島区は 23 区の中でも外国人比率が新宿区について 2 番目に高いという特徴があり、区では日本語をボランティアで教えている自主サークルと共催し、日本語を学ぶ機会を 8 か所で提供していますが、今後も生活者の視点にたった多文化共生支援に引き続き力を入れていく必要があります。

## 【今後の方向性】

区の HP での生涯学習情報を検索しやすいよう、キーワードを工夫したり、これからの情報だけでは

年度		23年度	30年度	
合計	講座数	354	16,941	
	対象別	うち17時以降	4	28
		うち土日	60	482
		青少年	33	7
		成人一般対象	120	208
		女性のみ	26	13
		高齢者のみ	0	17
		その他	175	16,696
		参加者数	17,045	284,060

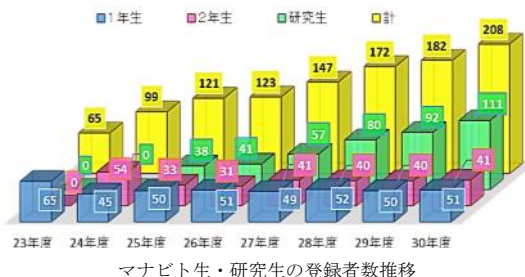
\* 社会教育調査(文部科学省)に基づく(豊島区回答分より抜粋)

なく過去に実施した生涯学習情報についても公開期間を定めながら掲載したりするようにします。また、学習相談窓口については、みらい館大明のブックカフェ等も活用し、学習支援活動をする区民による相談窓口を設けるなど、相談機能の充実を図ります。多文化共生については、今後も重要視されることから、関係機関と連携を図りながら「支援者の支援」という視点を持ち、進めていきます。

### (3) つなげる～この学びから社会的な学習活動への転換～

#### 【成果】

重点施策としていた「としま学講座」は、平成21年、22年の2年間で、区の政策や地域づくりや地域課題をテーマとした講座を6大学で開催しました。「としま学講座」終了後は、一般受講に加え、2年間登録し、受講生同士の学び合いを活かした地域づくりや地域課題の解決を目指す「マナビト生」制度を導入しました。さらに学んだ成果を地域につなげるために、学び続けることができる「マナビト研究生」を平成25年度から導入しました。制度開始後、5年が経過した今、研究生が学びを通じて仲間づくりや地域づくりへと、活動の広がりを見せています。



また、5館ある地域文化創造館では、学習の継続性に着目し個の学習からグループへの学習、さらに成果を発表し、次の人に伝える講師となるなどの循環を大切にしてきました。特に、「エリアガイドボランティア養成講座」では、平成27年度から5館合同で準備にあたり、各館での地域学習講座を手始めに、としまガイド養成講座入門編と応用編を実施しました。その結果、区内でガイド活動をする団体が4団体となり、特に、初めに立ち上がった「としま案内人雑司ヶ谷」では、平成23年度の発足時に28組延べ584名から、平成30年度47組1,116名の方にガイド活動を行い、地域を担う人づくりができてきていることがわかります。現在では、研修を実施し、ネットワーク形成・ガイド力アップに努めています。

#### 【今後の方向性】

区民自身が、社会的課題を見つけ、学びをとおしてその解決を図っていくことは今後も重要な課題となります。マナビト生の「個の学び」を尊重しながら、学びあう仲間を見つけ、小さなコミュニティを数多く組織することでよりよい社会につながるような働きかけを引き続き行っていきます。

### (4) つくりだす～学習活動のネットワーク化の促進～

#### 【成果】

生涯学習センター事業の一環として、指導者・学習者・学習支援者・施設運営者が一堂に集い、学びをふりかえる「学習ネットワーク交流会」等の研修事業を平成28年度から実施し、学びを軸としたネットワークづくりが広がっています。



学習・ネットワーク交流会の様子

#### 【今後の方向性】

学習活動のネットワーク化は、生涯学習事業である「学習・ネットワーク交流会」を中心に引き続き進めていきます。さまざまな団体や活動、人々が交流することにより、自分たちの活動を振り返り、新たな価値をつくりだすきっかけにもなるよう、生涯学習という大きな枠を存分に生かし、幅広い方々が参加し、マッチングできるような機会を継続して担保します。

このように、「豊島区生涯学習推進計画」の目標であった「区民が主体の学びの循環（わ）をつくる」ことについては、おおむね達成されていると考えますが、引き続きその理念を引き継ぎ、さらに生かすことを今期計画の目標としていきます。